

第1部 これ、修理できる?できない?



修理店と作る、お気に入りのものとの新たな毎日

京都市環境政策局資源循環
推進課 2R推進係長

のむらただし
野村 直史

京都市ごみ減量推進会議
事務局

ふじた かずみ
藤田 一美

「Better Than New」(新品よりずっといい)～修理の可能性～

アウトドア用品などを手掛ける有名ブランドが、修理しながら長く愛用された自社製品の写真とともに、新聞広告に載せたキャッチ・フレーズ「Better Than New」(新品よりずっといい)。

特に、衣類やかばん、家具などの修理では、使い込まれた風合いと補修により生み出された風合いが混ざり合っ、新品にはなく、また、元のものにもない、新たな魅力が生まれます。つまり、修理には捨てずに長く使いたい気持ちと、新しいものを使いたい気持ち、その両方を満足させる可能性があるということです。しかも、捨てて新たなものを買うよりも、ごみになるものは少なく、消費される資源も少ない。循環経済への関心と要求が高まる中、修理が注目されるのは当然といえるのではないのでしょうか。

修理店の情報などを掲載するサイト「もっぺん」

修理のお話を進める前に、京都市内の修理店などの情報を掲載しているサイト「もっぺん」(図1)を紹介したいと思います。

「もっぺん」は、関西弁で「もう一回」の意味。「もっぺん」サイトは、市民・事業者・京都市のパートナーシップで、

ごみ減量に取り組む「京都市ごみ減量推進会議」(以下「ごみ減」)が、2008年に開設しました。2R(リデュース、リユース)推進の観点から「修理」の促進策について検討していた京都市に呼応して、ごみ減の会員であった学生団体が市内を練り歩き、修理店の情報を集めて誕生したサイトです。全国的にも珍しい取り組みであったために新聞や雑誌で取り上げられるなど好評で、修理店は個人商店も多く、当時はホームページをもつ店が少なかったこともあって、「もっぺん」に掲載した店舗からは、「市外から問い合わせが入った」「利用客が増えた」などの反響が寄せられました。

現在では、ホームページをもつ個人店も増え、検索サイトから直接、修理店の情報にアクセスしやすくなっていますが、「もっぺん」はホームページをもたない店舗を含め、さまざまな品目に係わる修理店を掲載しているの、目的とするもの以外の修理についても知ることができるほか、修理に携わる職人のインタビューや修理事例などの掲載を通じて、修理をより身近に考えることができるサイトとして、その役割を果たし続けています。

さて、ここからは、この「もっぺん」の掲載情報をもとに、修理のお話をしていきたいと思います。



図1 「もっぺん」サイト (<https://www.moppen-kyoto.com/>)

修理店を紹介するサイトとして開設。現在は「リユース」に取り組む店舗についても紹介している。

どんな修理ができるのか?～まずは修理店に相談を～

表1は、もっぺん掲載店の修理例の情報をもとに作成したのですが、使っているうちに生じた、ちょっとした困りごとの解決を含め、さまざまなものについて

で多様な修理が可能ながわかります。「お気に入りのかばんの持ち手やファスナーが壊れた」「オーディオが壊れてCDが取り出せない」「靴のかかとのゴムがすり減った」「ネックレスのチェーンが切れた」など、捨てるにはまだ早い、

表1 修理の例

品目	修理例
かばん	・ファスナー、持ち手などの交換 ・スーツケースキャスター交換 ・内装の張替え など
靴	・かかとゴム、中敷きの交換 ・幅のばし ・傷の補修、クリーニング など
洋服・着物	・やぶれ補修、ウエスト調整 ・染め直し ・着物から洋服へのリメイク など
ジュエリー	・パール糸交換、チェーンつなぎ直し ・指輪のサイズ直し ・リメイク など
時計	・電池交換、ガラスや部品の交換 ・分解掃除 ・バンド調整 など
家具	・椅子の座面の張替え ・傷の補修 ・部品交換、再塗装 など
電化製品	・オーディオ修理、CD等の取り出し ・パソコン修理、部品交換 など
布団	・羽毛布団仕立て替え ・綿打ち直し など
その他	傘修理／扇子修理／人形修理／料理道具修理（包丁砥ぎなど）／陶器修理／造花修理 など

もう少し付き合いたいと思うものにトラブルが生じたら、ぜひ専門の修理店に相談いただきたいと思います。買い替えるよりも安い値段でどこまで直せるか、そもそも修理するのがいいのか、買い替えるのがいいのかも含めて、助言をもらうこともできます。

物や内容によっては新品同様に、あるいはそれ以上になって戻ってくる修理ですが、まずは早めに相談するほうが、より簡単な内容で済みやすく、費用も

抑えられることが期待できます。

なお、「もっぺん」のように、地域の修理店を紹介するサイトがない場合は、表1の内容を参考にするなどして、検索サイトや電話帳サイトを使って修理店を探していただく方法があります。また、特に家電製品の修理であれば、直接、メーカーの窓口相談する方法もありますし、保証期間内であれば、購入店に相談すればよりお得に修理できる場合があります。

修理の before after ～具体例の紹介～

「もっぺん」では、修理前後の写真とともに修理の具体例を紹介していて、ここではその中から洋服・かばんの事例をいくつか御紹介します。

まずは、スカートのウエストのサイズ直し（図2）。見えない部分にうまく別布を使うなどして、違和感なくきれいにウエストが広げられています。よそ行きの服として、大事にしまっている服は使用頻度も少なく、いつの間にかサイズが合わなくなっていることも。こういう修理がしてもらえるのは、ありがたい限りです。

次は、リバーシブルダウンの袖の補修（図3）。リバーシブルの機能を残したまま、似た風合いの生地を使って、きれいに補修されています。袖は、接触などでトラブルが起こりやすいところ。気に入っているのに袖に穴が！というときには、ぜひ修理を検討してください。

次は、かばんファスナーの修理（図4）。誰もが一度は経験するであろう、かば

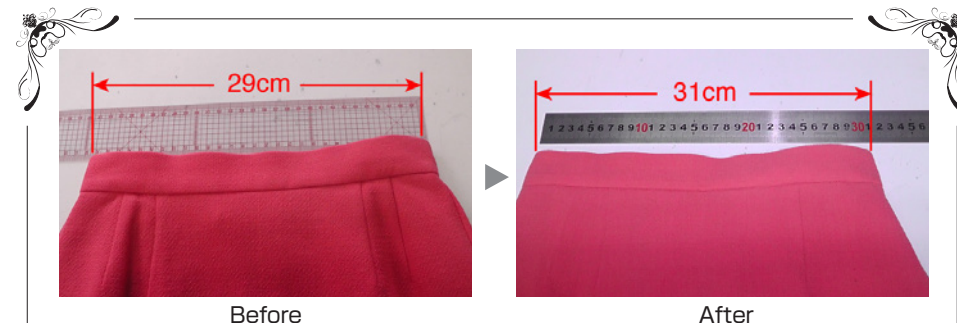


図2 スカートのウエストサイズ直しの例

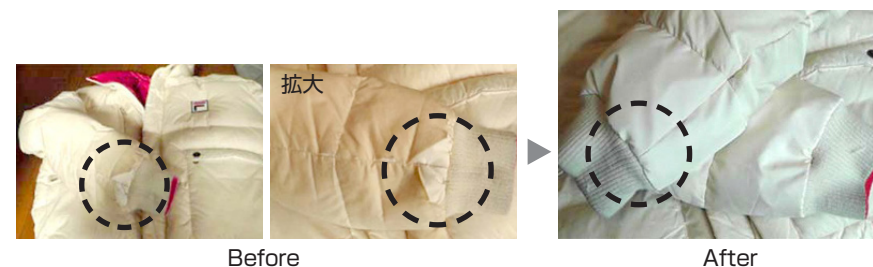


図3 リバーシブルダウンの袖の補修

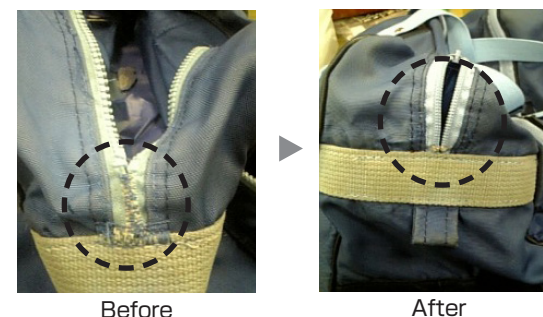


図4 かばんファスナーの修理例



図5 ブランドバッグの内装補修



1 内装をほどき、パーツごとに分解。



3 型に合わせて、専用ナイフで裁断。



2 一つずつパーツの型を取る。



4 ミシンで縫製し、内側に取り付ける。

図6 修理工程（ブランドバッグの内装補修）

んファスナーのトラブル。デザインが気に入っている、サイズが使いやすいなどの理由で手放しがたくて、多少のファスナートラブルならば使い続けている方もいらっしゃるのでは。そんなときはファスナー交換をすれば、お気に入りのかばんとストレスのないお付き合いが続けられます。

最後は、ブランドバッグの内装補修(図5)。擦り切れたり、ベタついたりしている内装の合皮を、丸ごと入れ替える大補修。しかも補修の際に、合皮から牛皮に変更してバージョンアップがなされています。「母からもらった大切なかばん」という依頼者の思いに、職人

が見事に応えた修理事例です。

ちなみに、もっぺんでは、一部の事例で修理過程の写真(図6)も紹介していますが、普段は見えないものの内側を知れるので、「なるほど、これは、こういう風にできているのか」と新たな発見があります。

ものと長く付き合う工夫は？

修理店の職人たちは、それぞれの品物に携わるプロたち。ごみ減では、そうしたプロたちに、ものと長く付き合う工夫についても聞いています。表2は、そうしたお話からいくつかピックアップしたものです。

表2 ものと長く付き合う工夫の例

品目	工夫の例
かばん	長期間使用しないときは、型崩れ防止に新聞紙などを詰め、袋に入れる
靴	・毎日同じ靴を履かず靴を休ませる（通気） ・雨でぬれたら、しっかりと乾かす
洋服・着物	・衣替えでタンスにしまう前にクリーニングに出す。しまうときは、防虫対策をする ・ファスナー付きのものは、ファスナーを閉じて洗濯する ・購入時に添付の共布は、補修用に残しておく
革製品	・湿気を嫌うので、押入れにしまい込まず、適度に使う ・クリームなどを定期的に塗って保湿する
家具	引き出しは、たくさん詰めすぎず、8分目程度を心掛ける
時計	電池が切れた状態で放置しない（液漏れ等の原因になる）

総じていえるのは、適度に使い、適度にお手入れをしてあげることが大事ということ。職人たちから聞かれるのは「もののお世話をする」という表現で、その言葉から「ものとの付き合いを愛でる」という感覚が伝わってきます。

「もっぺん」サイトでは、「もっぺん物語」と題して、修理に係わる職人のインタビューを掲載しています。ここで紹介した「ものと長く付き合うコツ」だけでなく、修理のエピソードやこだわりなども紹介しているので、ぜひ御覧いただきたいです。

修理店の力を借りて、日常的に「修理する」という選択肢を

ここまで修理店での修理事例などについて紹介してきましたが、修理を依頼する際に欠かせないのは、修理店とのコミュニケーションです。「どこが悪くて、どのように直して欲しいのか」「修理にどんな作業が必要で、費用はどれ

くらいか」。丁寧なコミュニケーションは、修理後のトラブル防止にもつながります。ネットで言葉を交わさずに買える時代、大変アナログな作業ではありますが、職人との会話の中で、普段は気づかない奥深さを知り、単に消費してきた「もの」の価値を改めて実感することもあります。それは、なかなか得難い経験です。

修理は簡単なものから大掛かりなものまでさまざまですが、修理されたものはどれも「自分だけの一点モノ」になって返ってきます。修理は、自分だけの「Better Than New」と出会う作業だと捉えると、これまでとは違った角度から修理をしてみたいと考えていただくことができるのではないのでしょうか。

修理店とのコミュニケーションを楽しみながら、日常生活の中に「修理する」という選択肢を、ぜひ取り入れていただければと思います。